

第2次木津川市生涯学習推進計画策定委員会 開催結果要旨

会議名	第2次木津川市生涯学習推進計画(第1回)策定委員会		
日時	令和5年7月14日(金) 13時30分~15時20分まで	場所	市役所4階 会議室4-4
出席者	委員	■前平 泰志 ■高原 和子 ■木村 勝 □生田 幸広 ■河口 靖子 ■市川 孝司 ■米田 崇 ※□:欠席者	
	事務局	森永教育長、竹本部長、吉岡次長、東村課長、久保担当課長、藤田課長補佐、秋元係長、堀係長	
<p>1.開会 事務局より開会を宣言した。</p> <p>2.委嘱 委員に委嘱状を交付した。</p> <p>3.教育長挨拶 教育長より委嘱にあたり次のとおり挨拶があった。</p> <p style="text-align: center;">第1次計画策定から10年目を迎えようとしている。この間、様々な出来事が起こった。とりわけ令和元年末に出現した新型コロナウイルス感染症は、世界中を不安と混乱に陥れ、我が国においても3年あまりの間、社会教育、社会活動全般に大きな制限を余儀なくされた。また、情報化の進展は目覚ましく、企業活動や学校教育活動はもちろん、スーパーや通販等の日常生活にもデジタル化が浸透し、生活に必要不可欠なものになりつつある。さらには、我が国の少子高齢化は着実に進行し、少子化対策が国の最重要課題となっている。改めて人と人との温もりのある触れ合い、語らいの場の大切さを痛感する次第である。このような社会状況の中、人が生涯を通じ、豊かに幸せに生きていくためには、文化、スポーツ、健康、福祉、人権、防災、自然保護など、私たちの生活に身近な環境全てが関係しており、その全てが生涯学習の対象であると思っている。本計画では、これらの時代や社会の現状を踏まえ、市民の皆さまのニーズに応えた学習の場の提供、機会の提供、学習情報の提供が基本的な事であると思っている。計画の基本は、人が豊かに幸せに生きていくための一助となるものであるので、委員の皆さま方には、それぞれの分野の立場から活発な御意見をいただきたいので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>4.委員及び事務局の紹介 委員及び事務局職員の自己紹介を行った。</p> <p>5.委員長及び副委員長の選出 委員の互選により、委員長として前平委員を、副委員長として高原委員を選出した。 委員長より就任にあたり次のとおり挨拶があった。</p>			

第1次の策定委員会でも委員長を仰せつかり、答申させていただいた経緯があり、今回、第2次でも委員長をさせていただくこととなり、大変光栄に思うと同時に緊張している。自分で作ったものを自分で評価するようで気恥ずかしいが、いろんな問題点もあるならば、それらを自ら検討してみたいという思いが強くなり、ご依頼があった際に自分の方から使命としてでもやらないといけないと思い、今回委員のひとりとして、喜んで引き受けさせていただいた。

生涯学習、生涯教育という考え方が出てきておよそ50年近くになる。時代が変わり、コロナ、少子化等、いろんな状況が変わるなかで、生涯学習の課題、とりわけ重点的な課題も変わらざるをえず、そういうことも検討しないといけない。今日、生涯学習という考え方は、かつてに比べて市民の中には当たり前のように受け入れることが多くなった。第2次の策定の際には、それをどのようにこれから発展させていくかを考えながら進める必要がある。この計画がどこに出しても恥ずかしくない、誇りにできるようなものにしたい。

6. 諮問

教育長より委員長に対し諮問(諮問書のとおり)を行った。

7. 議事

①第2次生涯学習推進計画策定委員及びワーキング委員について

資料1を基に第2次計画における策定委員、ワーキング委員について、説明を行った。

②第2次生涯学習推進計画策定スケジュールについて

資料2を基に今後の策定委員会の予定や計画策定までの流れ等について、説明を行った。

(委員)

今後、委員会の日程が決まれば、どれぐらい前に知らせていただけるのか

(事務局)

2週間前には、お知らせさせていただくようにしたい。

③第2次生涯学習推進計画の策定において

資料3を基に第1次計画の検証として、各基本目標における評価と課題及び第2次計画策定のポイントについて、説明を行った。

(委員)

1次計画策定後の10年間で、かなり時代の変化が感じられる。AIの普及、使い方等について、新聞でもよく掲載されており、そういうところも必要ではないか。また、LGBTQについては、知ってる方は知っておられるが、分かりにくいと思うので、その書き方について、このままいくのか、それとももう少し分かり易いように日本語的な書き方にするのか、検討する必要があると感じた。

(事務局)

このキーワードについては、まず、課内協議の中で意見を出し合い、案を検討し、その後、第1回目のワーキング委員会で議論した中で、いろいろご意見をいただき、それを反映させ、このよ

うにさせていただいた。AI や LGBTQ については、再度、事務局の方で計画の中にどのように落とし込めるのか検討した上で、次回の会議にご提示させていただく。

(委員)

評価のところにあるように「いきいき」や「サークル情報誌」などの生涯学習情報誌を作って、配布していただいた。このような情報誌をペーパーで発信していただくのは、本当に大切に必要なことだが、これを配布後、どれだけの方が保存して、活用されているのか疑問である。折角、苦勞して情報を集めて、冊子を作っていただいたので、各家庭に一冊置いていただきたいと思っているが、どのような方法で配布をされたのか。

また、キーワードのところで、地域防災とあるが、公民館として地域防災について、どのように考え、どのように捉えて、どのようなスケジュールで関わっていけばいいのか分からない。自治体との兼ね合いやご近所との付き合いの中で、地域防災の大切さというものもあると思うので、その辺を生涯学習として、どのように考えていて、我々もどのように発信したらいいのか分からないので、教えていただきたい。

(事務局)

情報誌の関係については、「いきいき」という情報誌を約10年前に発行し、広報誌に折り込み全戸配布をしていたが、かなりの予算がかかっていた。その後、2年前には「サークル情報誌」として、業者発注せず、職員の手作りで作成し、各施設の窓口に配架し、市のホームページにもアップをした。今では、情報発信の手段として、各サークルの活動状況を YouTube や SNS 等を活用し、発信されており、発信の方法も変わってきているので、今後いろんな情報手段を使いながら、生涯学習の情報提供をしていきたいと考えている。

地域防災については、キーワードとして挙げさせていただいたのは、昨今、いろんな災害が発生しているが、災害に対して、市民の皆さんがどのような形で、防災対策を、どのように考えていく必要があるのかという中で、例えば、ある自治体では防災講演会を生涯学習の一つの講義として行っておられ、その中で地域防災について、市民の方に学習していただけるような機会を提供できるのではないかとということで、計画の中で見込んでいきたいと思っている。

また、公民館での防災をどのようにしていくかについては、サークル活動と連携した中で何ができるのかということは、状況も研究しながら検討したいと考えている。

(委員)

1次計画を読んできたが、非常に難しい内容であると感じた。これを市民の方は理解されたのかと疑問に思う。生涯学習について、私自身の感覚では、とにかく学んでみたいという方が増えて、趣味や実益に活かすのではなく、学びたいということが目的なのではないかと思い応募した。計画の中にも、決して難しいものではなく、いつでも、どこでも、誰でも、できるものと書いてあり、そういうものと思っていたが、実際かなり内容的に難しいと感じている。キーワードについても、ICT、SDGsなど、市民の皆さんが学ぼうとする時に、市全体で取り組むような問題をキーワードにしてしまうと難しいと思う。もっと市民が簡単に学習してみたいと思うようなきっかけを与えることが、この会議の目的ではないのか。例えば小学生のドッジボール大会とあるが、これを大人のドッジボール大会にしたらどうか。お父さん、お母さんが頑張っているのを応援して、ワイワイと盛り上がるとか、そういうように、もう少し箍を外した考えも必要ではないか。内容についても1次とほとんど変わっていないが、このままでは同じような感じになり、一体だれが読むの、誰が理解するの、とならないか疑問に感じたので意見としてお伝えしたい。

(事務局)

生涯学習は、「学ぶ」ということだけではなく、いかに健康に生きていくかというところが、まず一番根底だと思っている。そのために講座で学ばれる方、スポーツをされる方、また、その大会に出るために頑張ろうと思われる方、皆さん取り組みの形というのは様々である。

今回のアンケート調査の自由記述欄には、生涯学習って何かよく分からないという方や、日々健康に生きられるように頑張っているというご意見もあり、それも生涯学習であり、具体的にこのような活動をしよう、このような講座をしよう、これを勉強しよう、そういうことだけが全てではない。そのようなことも含めて、この計画は、その基礎となる部分で、その中でキーワードとして、いろいろ出させていただいたが、それについての具体的な事業を作る計画ではなく、そのベースとなる人が小さい時から高齢者になるまで、いかに元気で生きがいを持って人生を送れるかというところの基本的なベースとなるような考え方が、この生涯学習計画なので、こんなことをしないとイケないという事の計画ではない。

(委員)

この文字を見た方は、そう感じないか。

(事務局)

この計画自身は、直接市民の方を対象とするというより、木津川市自身が市民への生涯学習の機会や情報提供、事業を行うことに対しての基本的な方向性を示すものである。市民の方に対しては、もっと柔らかく具体的な形での情報提供や講座の開催になる。本計画は、生涯学習に関する事業を行う際の市の基本的な計画であり、事業実施の際には、こういった視点でやって欲しいというようなことである。今いただいたご意見は、踏まえる必要があると思っている。

(委員)

この会は、市民の方に生涯学習をしていただきたいということだが、これでは伝わらないのではないか。

(事務局)

本計画は、行政が生涯学習の事業を行う際の基本方針や、実施にあたっての視点を盛り込んだもの。市民の方には、もっと柔らかく、もっと柔軟に、いつでも、どこでも、誰でも気楽にといった場の提供を行っていく。

(委員)

各部署等から、そのような市民の方に具体化したような活動の後は見えるのか。

(事務局)

作っていく必要がある。

(委員)

作っていないのか。

(事務局)

音楽、スポーツの部門、いろいろあるが、その中に気軽に参加していただいており、不十分な点があれば、実務面で改善をしていく必要があるが、基本は、いつでも、どこでも、誰でもできる生涯学習を目指すということで、事業面においても、そのようなことをする必要があるので考える。

(委員長)

策定委員は市民の代表のようなもので、策定委員会が作る答申は、市に対してこういうものが生涯学習の進む道であり、それに向けて邁進してくださいというものだと思うが、どうか。市が

取り組むべき生涯学習の基本的な姿勢を示すものが、この答申の目的だと思うが、そうではないのか。

(事務局)

仰るとおりである。市が市民の生涯学習を行う際には、検討委員会として、市民の側に立ち、望ましい生涯学習のあり方を答申していただく。

(委員)

基本目標1では、情報誌の話があったように、生涯学習に取り組みたい、いろんなところに関わりたい、という方は沢山おられる。そういう方をどう参加させていくか、やりたいが、どこに行けばいいのか分からないという方もおられるので、こんなことをしたい方は、ここへ申込みばいいと分かるような情報提供があれば良いかと思う。

次に基本目標2では、地域交流活動の支援ということで、まちを作るためには地域がバラバラではダメで、地域の人と人が繋がるような、事業や交流の場を作っていくことが必要であると思う。例えば、放課後子ども教室は、子供達の安全な遊び場所を提供するという事業であるが、そこには高齢者の方がボランティアで参加されており、その中で高齢者の繋がりや、高齢者と子供との繋がりもできる。それが生きがいにもなり、健康寿命も伸ばしていくので、子供と関わることによって、高齢者が元気になる。子ども教室については、この10年の内に市内では7校で実施されている。その他、いろんな事業として、大人のドッジボール大会の話もあったが、子供だけ、大人だけというより、世代間交流になるような事業が必要と考えており、小学生と高齢者、その間にもうひとつ中間になるような世代の子、例えば小学校で経験した子供が中学、高校になっても、そこへ入っていくといった繋がりができれば、一番良いのではないか。大人も参加すれば世代間の交流ができ、それが地域の横の繋がりができる事になるのではないか。

3つ目の目標、充実した人生を送ることができる生涯学習社会の実現については、高齢者の事業もいろいろあり、沢山の人が参加しておられる。外へ出る高齢者の方が多く、引きこもっていると健康寿命が伸びないので、できるだけ外へ出る機会を増やしていくことが大事だと思う。これらの評価課題を整理して、更に伸ばしていくということで、この3つの目標について、第2次計画の策定に繋げていけば良いかと思っている。

(事務局)

この計画は、10年先の生涯学習に向けての基本となる。計画の中にどこまで具体的な事業を入れるかは、次の段階になってくるが、委員の皆さんが、もっとこのようなことが必要だろうと思っただけのことを進められるような、キーワード的なものを今後計画の中に盛り込んでいき、この10年間で進めた検証ということで大まかに示しているが、その中で具体的に、こういうことが成果として上がったということがあれば、次回の時にお示しできるかと思っている。

(委員長)

日本の学校教育では、幼稚園や子ども園、保育園でも0歳から年齢ごとに輪切りになってしまう。社会生活の中では、とても不自然なことで、学校教育だけが年齢で区切られている。管理しやすい、教育しやすいというメリットはあるが、結果としては、高齢者と子供を分断してしまうことになる。生涯教育、生涯学習を通じての世代間交流は非常に重要であり、その点も盛り込んでいただきたい。そこを大きく出していければ、生涯学習の意味で重要性ということは、強く出てくるだろうと、お話をお聞きし共感した。そういうことも中に入れて頂ければありがたい。

(委員)

この10年間でスポーツをする方が減った。呼びかけてもスポーツをしていただけない。若い世代の方がスポーツに参加しない。いろんな手伝いをするのが嫌ということで敬遠される方が多いのが現状である。本協会では、高齢者の方が頑張って運営していただいております、市民運動会、マラソン大会でも、70、80の高齢者の方が運営し頑張っていただいている。

この資料に書かれている全てのことが大事だと思うが、本協会としては、いかに参加していただけるか、呼びかけに応えていただけるかというのが一番大事だと思っており、いろんな方を勧誘しているが、手伝いのことを説明すると退かれてしまう。合併当初 2500 人いた会員は、今では1000人になり、市民大会をしても参加チームが0という大会もあるので、スポーツの面からすると、もっとスポーツが活発になるような計画になればと思っている。

(事務局)

生涯学習や社会の中でのスポーツについては、参加しづらい状況になっている。それぞれ学生の時には、そこでスポーツに力を入れていたと思うが、それは学校という組織の中で運動に専念できるという状況であったが、社会に出ると、スポーツをして、裏方の仕事もしながら、その全体を運営していくというところに二の足を踏んでしまうところがあるのかと思う。人間ひとりでは生きていけないので、助け合うということも大事であり、年々、世代間の考え方も変わってきている中、そのようなことも踏まえ、何かきっかけになるようなことを広げていけたらと思う。それはスポーツだけではなく、文化面においても同じだが、いろんな講座の提供をして、講座に入っただき、そしてサークル活動に移って、自分達でやっていこうというようになるのが一番良いかと思うので、そのようなきっかけを増やすベースになるよう計画を作る必要がある。

④アンケート調査について

資料4、5を基にアンケート調査の内容、方法等の説明を行い、アンケートの集計結果について、説明を行なった。

(委員)

アンケートの結果は、今の木津川市の現状が現れていると思った。10年前と違うのは、インターネットで参加された方が増え、以前の用紙の時代から、身近にあるもので参加できたというのは時代の流れで良かったのではないかと。アンケート結果を見ると、そのままよく出ていると思う。私もアンケートを行ったが、大体同じように1位、2位のところに入っていた。

(委員)

私は、公民館活動の他、スポーツ、文化財、子どもの見守り等々、幅広く生涯学習に関わっている。例えば子供の見守りでは、子供達と関われ、対話ができ、自分自身学びを感じている。また、スポーツ協会にも関わっており、ニュースポーツを広めており、マイパックのサークルを作り、公民館で頑張っている。生涯スポーツをスポーツ推進委員の方が普及していただいているが、今後どのように繋げていくかが大切で、サークルを作り、子供から高齢者の方まで、一緒になってやるというのがニュースポーツの良さであると思う。今、家族で体育館を使って楽しんでいる方が多くおられ、バスケットやバレーをやっておられるのを目の当たりにして、これを上手く生涯学習に繋げていく、まさにそのことが市として、今までの概念を外して関わっていかないといけない

のではないかと、最近いろんな活動をする中で感じているところである。

(委員)

前回のアンケートと比較をしたところ、今回は生涯学習をされていますかという質問があったが、今回はなく、問6から推測できると思うが、6のところにしていないという項目があり340人おられ、総数の1557人から計算したところ、21.8%の方がしていないということで、前回52%から22%になったということは、飛躍的なアップで、この10年間の成果がかなりあったと思われる。問6の設問は複数回答だと思うが、回答数を割り算すると12%になっているが、正しくは22%であり、このグラフを見ると88%が何かをしていると解釈されてしまうのではないかと。

(事務局)

修正させていただく。

(委員)

問16の地域づくりやボランティア活動の関わりについて、関わりたい、機会があれば関わりたいという方が68%、あまり関わりたくない、関わりたくないという方が30%だが、その内訳として問17を見ると、関わり方が分からない、仲間がいない、時間がない、機会がない、という方が多くおられるので、この理由が解消できれば、関わりたいという方が増えるのではないかと。ただ、わずらわしいという方が17%おられ、わずらわしいと考えている方は、恐らく関わらないと思うが、関わりたくないの中でも、これ以外の方は、機会があれば関われると思うので、そういう関わり方を上手く教えてあげれば、参加できるのではないかと。そのように考えれば、ほとんどの方が地域づくりやボランティア活動に関わりたいという思いは持っておられるので、そういった人達をどのようにしていくということが、大事になるのではないかと考える。

(委員長)

生涯学習のアンケートに答えようという方で、関わりたくないという方が、わざわざ回答していただいているということは、何らかの形で関心があるという風に考えても良いのではないかと。何かをやってはいないが関心はあるということで、私は好意的に解釈している。

(事務局)

機会があれば関わりたいという方が836人におられ、ほっとしているが、どんな組織でも誰かがリーディングをして、誰かがやっていけば、やっていこうということで、お膳立てがあれば行きたいという方が多い。先程のスポーツ関係でも気にされているように、そのようなリーディングで若い人が来ない、育って来ない、ということが問題である。

もう1点、話は変わるが、相楽台小学校では、ほっぷ(HOP)広場という放課後子ども教室がある。Hは放課後、Oは大人、Pはスペース、場所ということで、放課後子ども教室であるが、実際は大人の居場所広場と仰っていた方がおられた。大人が楽しんでいけば、子供も楽しいということで、大人の居場所作りになっている。先程、世代間の話があったので、なるほどと思って聞いていた。それも自発的にそういった地域の雰囲気があって自分達で作られたので、長く続いている。

(委員)

問10の今後学びたいものについて、スポーツが312人おられるというのが、明るい材料だと思った。健康増進もスポーツで健康増進を図っていただけたら結構な数になるので、これからどのように呼び掛けていくか検討したい。また、先程も大人のドッジボールの話があったが、いろんな競技をやりたいと思っており、参加する機会を設けて、今後、活発にやっていきたいと考え

ている。

(事務局)

アンケートの項目については、前回と変わっているところもある。本来であれば、ワーキングや委員会でアンケートの内容を協議して決めれば良かったが、スケジュールの関係上、事務局の方で前回のアンケート内容を参考に考え、先行して実施させていただいた。今回このような結果となり、自由記述欄についても多くのご意見があり、現在、取りまとめを行っている。次回の会議には、お出しさせていただく。

8. その他

本委員会における議事録の作成及び公開について説明を行い、委員の承諾を得た。

9. 閉会

事務局より閉会を宣言した。

以上

その他特記事項

傍聴者0人、報道関係者0人